とよなか市民活動ネットきずな　ニュースレター

いろいろえんぴつ 15

発行：2009 年 8 月／特定非営利活動法人とよなか市民活動ネットきずな／ニュースレター編集委員会

残暑お見舞い申し上げます

甲子園の高校野球から、衆議院選挙と、長い熱い夏が続きます。野球といえば、数年前、どんな脈絡だったかは忘れましたが、「もし、甲子園球場で好きなことをしてもいいと言われたら、何をしたい?」という話題になり、A 君は、「当然、監督でしょう」と言いました。次に、B 君が、「あの芝生が最高の状態になるように管理したい」と言ったので、一瞬ためらったのち、「僕は、スコアラーかな」と言ったら、互いに妙に納得してしまったことがあります。

また、十数年前、市役所に勤めていたときに、仕事上国の官僚などと、接触することが多い職員が使う言葉に、スポーツの世界で使われる言葉が多いのが気にかかったことがありました。スタンスがぶれているとか、グリップが弱いとか、脇があまいとか…。当時は、政財官の強い結びつきに対して「鉄の三角形」などという言葉がマスコミをにぎわしていた頃でした。ですから、そういう世界では、ゴルフの付き合いなどの場で、コースの難局をクリアさせてくれたコーチのアドバイス用語を共通体験し、事態を打開するキーワードとして、流行っていたのだろう…とか、そういう世界の人たちの間で使われる言葉が、いつの間にか、地方自治体の金を動かす人達の間にも、浸透してきているのかなとか、勝手に推測していました。

野球などのスポーツが、人と人の付き合いだけでなく、言葉の世界に影響し社会を関係付ける…などと難しく考えながら、8 月 30 日投票日が近付いてくると、どんな言葉が出回るのだろうかと、耳を澄ませました。「地方分権」という言葉が、橋本知事とか東国原知事たちによって、話題になっています。各政党の「マニフェスト」が出揃ってくるとか、「バラマキ」、「財源問題」の言葉も出回っています。

「…ところで、言語の堕落は究極において政治と経済に起因することは明らかである。」という、思い切った言い方が、イギリスの作家ジョージ・オーウェルの『右であれ左であれ、わが祖国』というエッセイ集の中の「政治と英語」(1946 年) という一文の中にあります。イギリス人が書いたものですから、英語は、彼らにとっての国語のことであり、日本に置き換えると、タイトルは、「政治と日本語」ということになりますね。そこでは 5 つの例文が紹介され、共通する二つの性質として、「第一はイメージの陳腐さであり、もう一つは精確さの欠如である」と、指摘していました。この夏の選挙戦で、市民活動のネットワーク活動を地域でしている私たちが、バラバラにならず、きずなを強めていくような言葉が、「右であれ左であれ」、沸き起こってくることに期待しましょう。

(特活) とよなか市民活動ネットきずな 事務局長 平尾 和

豊中まつり 2009 市民ふれあい広場は無事終了しました。

今年は警報が出るなどして、やきもきしましたが、開催時間中は雨も降らず、事故もなく無事に終了しました。

市民ふれあい広場も二日間大変なにぎわいでした。実行委員会を重ねて協議してきた成果が、さまざまな場面で発揮でき、今年も多くのであいやつながりが生まれました。ご参加・ご協力ありがとうございました。

きずな人往来

街のリビング　ぽすと

ＮＰＯ法人　であいの郷市民委員会理事長
東（あずま）　千鶴子（ちづこ）さん

今年６月、蛍池駅近く、街角の「食のサロン」をめざして、「街のリビング　ぽすと」の営業開始。障害者に関わる活動への思いが、「障害者、子育て中の人、高齢者、孤立しがちな人々の憩いの場にしたい」、「美味しいものを食べてもらいたい」という思いへと広がって、「今だからできること」と新たな挑戦を始めた東千鶴子さんに伺いました。

◎どんな子ども時代を？

1939 年神戸生まれ。2 歳で貿易商の父のいる上海へ。敗戦の時 5 歳だった。父は徴兵で不在。母から「本土引き上げか、親類のいるもっと奥地へ？」と相談を受け、祖母の住む京都へ「帰る！」と決めた。引き上げ時、母に上の弟は「あんたが連れて帰るんやで」と言われ、博多で母とはぐれた時も 1 週間かかって京都へたどり着いた。「できるんやなー、5 歳でも…、あの時中国の奥地に行ってたら、残留孤児となって親を探しに来てたかもわからへんな、と思う」

◎障害者とともに生きる暮らしをつくろうと活動を始めたきっかけは？

18 歳の時、父の事業が倒産。弟を連れて独立し、間借りして働き始めた。22 歳で結婚し、24 歳の時、重度の障害をもつ娘の親となった。その後 2 子を得て、介護、子育て、自営業の経理から人集めまで、「できることは、ほとんど一人ですべてやったけど、それが当たり前と思っていたのでしんどいとか思ったことなかった」。1973 年、他市で養護学校に入っていた娘のために、小学校の当時統合教育の先進地区であった豊中の「ひろがり学級」に入るために転居してきた。統合教育をめざして活動する豊中市教職員組合との出会いもあって、仲間と『障害者の生活と進路を考える会』を立ち上げ、娘は中学入学時には豊中市で初めて校区の学校に入る状況ができた。

◎何がきっかけで豊中市議会議員に？

43 歳の時、もともと料理が大好きで「お惣菜や」を市場で開業。当時府会議員の選挙事務所の仕出しをするうち、「障害者の問題が地域で認識されるよう主張したい」と思う人々から声がかかり、1987 年、48 歳で社会党から豊中市議会議員に立候補し当選。議員になったものの、最初は決算書は読めないし、「一般質問って何？」という有様で、行政とのヒヤリングなど戸惑うことばかりだった。在任中は豊中市の市立小中学校の統合教育の推進や障害者が当たり前に自立して生活していけるための社会の仕組みや認識を変えるための活動に懸命だった。1986 年、自由米を提唱する島根の農家との連携により、無農薬米の共同購入を開始。その配布の利益金による基金づくりに 10 年間かけ、1996 年には無認可の障害者の作業所開設にこぎつけた。4 期目で議員を落選してから 3 年後の 2001 年に「NPO 法人 であいの郷市民委員会」を設立。ヘルパー派遣、グループホーム・ケアホーム運営事業も開始した。個人を尊重し、地域の中で自立して、生活していくことを目標に、自分づくりの支援、介助をともにできる社会づくりの活動を続けている。娘も本人が 20 歳のときから望んでいた自立生活に入った。けれど自立したからといって、孤立した生活をしていたのでは何もならない、人と人のつながりが大事と考え街の中に憩いの場を創ること、またそこが継続するにはビジネスも成り立つ必要があると考え、豊中インキュベーションセンターにデスクを持って、「ぽすと」開店にこぎつけた。軌道に乗せることがこれからの課題。

◎障害者自立支援法が 2006 年 4 月から施行されましたね。何が変わりましたか？

親は親、子は子、すべての人は青年期に自立して暮らし、働く場を持ち、住居が保障され、ともに助け合いながら、社会の一員として喜び、悲しみ、怒り、苦しみにも耐え、明日に希望を抱き、自分で考え行動する時代が来たと思う。障害があっても普通に、当たり前に生きることができる社会であってほしい、という願いを支援する体制はできたと思っている。但し、法律の不備な点への追求はもちろん必要ですね。

（鵜川）

「街のリビング　ぽすと」店内▶

豊中のNPO探訪 その6

「原田城跡・歴史と文化の会」

阪急宝塚線曽根駅の西、徒歩約6分の所に、豊中市指定史跡「原田城跡」があります。そこには、中世に築かれた「土塁」の一部と、昭和 12 年 (1937 年) に建てられた近代郊外型住宅「旧羽室家住宅（国登録有形文化財）」（写真上）が現存します。建物だけでなく、調度品も多く残されており、その当時の生活様式や文化に触れることができ、庭は四季折々の風情が楽しめます。

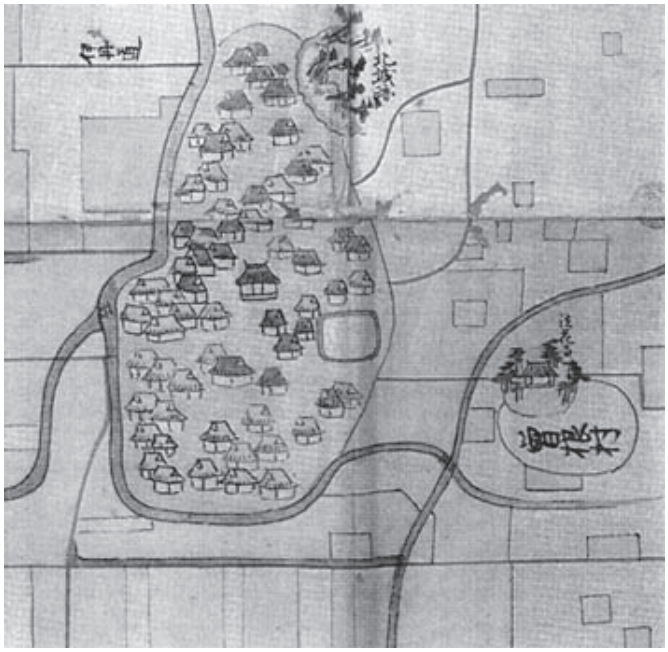
そして、この土地・建物が平成 16 年（2004 年）に豊中市の所有物となりました。平成 17 年 (2005 年) に、原田城跡の一般公開が行われ、その参加市民が「原田城跡の未来を考える集い」で保存・活用を検討し、その後「原田城跡の未来を考える会」を経て、平成 18 年 (2006 年) に市民グループ「原田城跡・歴史と文化の会」が発足しました。（現在の会員数：94 人）

会の活動は多岐にわたり、原田城跡の調査研究だけでなく、「住宅都市豊中」の発展のルーツや近代建築の探索、古文書講座、他史跡見学などのフィールドワーク、豊中市との共催で市庁舎ロビーや千里文化センター・コラボでの展示、「しろあと通信」の発行など、広報活動にも力を入れています。「そね坂まつり」では、「そね２１の会」と共催で、庭で「昔の子ども遊び」体験や「竹あかり」などの行事が行われ、たくさんの人が訪れました。

現在、建物の耐震補強工事が行われていて、今年の秋から、一般公開が予定されており、公設民営の文化施設として、会が活用と運営に取り組む予定です。

会の皆さんは、「自分の住んでいる地域の歴史を大切にして残したい」「保存だけでなく、活用を考えたい」「コミュニティの核とし、交流の場としたい」と、地域の財産を、歴史的価値で保存するだけでなく、集いの場と地域文化の発信・まちづくりの拠点として活用しようとしています。

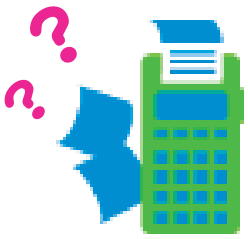
こんな近所に、こんなに興味深い素敵な場所があるなんて！と、初めて見学した時、感動しました。会の皆さんの綿密な研究・調査と共に、楽しい催しの企画が今から楽しみです。　　（田中久美子）



古地図に城跡の表記が見られる（中央上部分）

Q：NPOの会計

これまで収支計算書は、現金預金の収支合計で計算、報告してきました。今回行政から事業を受けて契約しましたが、支払いは事業完了後の来年度始めになるそうです。そうすると今年度の収支計算書にはその金額が計上されないことになりますが、それでもいいんでしょうか？



A：NPO法の会計に定まった基準はありません。従って、現金預金の出入りのみを収支とする収支計算書（現金主義）でもいいのですが、質問のように年度内の事業に対する契約金が次の年度に支払われる場合、事業と予算の関係が第三者からわかりづらくなります。契約が発生したときに収入に計上し、貸借対照表に未収金として挙げる方法（発生主義）のほうがわかりやすいのではないでしょうか？収入が入ってから払う約束で会場費や印刷費などを待ってもらっている場合も収支計算書に挙げ、未払い金として処理します。これらには複式簿記の知識が少し必要ですが、事業と予算執行との関係が分かりやすいので、検討してはいかがでしょう。

なお、この場合、年度が替わって支払いがあっても、未収未払いが消えるだけで、新年度の収支にはあげません。

※現在ばらばらな基準で作成されている NPO の会計基準をつくろうという動きがあります。

【参考】

http://www.npoweb.jp/modules/news1/article.php?storyid=3108

わーさんのおすすめ本

長谷川櫂著

「和の思想ー異質のものを共存させる力」

（中央公論新書）

★★★★☆

発行：中央公論新社

自分の名前が書名で、しかも、副題は、きずなが欲しがっているもの、即購入です。

「和」の国名の由来は、中国の王朝が周辺の国々を侮蔑してネーミングした倭国・倭人に始まるが、ある時、この国の「天才的な人物」が「倭」を「和」と改めた。「わ」と同音だが、和の意味は、敵対するもの同士が和議を結ぶという「誇り高い」意味の漢字で、中国の漢詩に対して和の国の歌は和歌と呼んだ…、という話や、兵馬俑のように整然と漢字の並ぶ中国の書をまねて書いた人たちも、やがて、蒸し暑い日本では息苦しく感じたのか、「和」をくずして「わ」という仮名を発明した話。

洋画から建物、食べ物まで、「この何もない緑の島々」の先人たちが、外来ブツを「受容」しては、「選択」「変容」させてきた事例集です。

（平尾）

事務局のつぶやき

豊中まつりが終わった。春から準備を進め、毎年昨年の轍は踏まないようにと思いながら、次々問題が出てきて、不安を抱えながら当日を迎えることの繰り返し。気の抜けない二日間。でも始まると、もうメチャクチャ楽しい。少々のことは当事者ー出店団体や出演者、ボランティアの人たちが自ら解決してくれる。毎年新しいであいや発見がある。終わったとたん、「次はこうしたら？来年はこんなことをしたい」という声が飛び交う。

汗と笑顔のまつり、みなさまお疲れ様でした。

編集後記

ゴーヤの緑のカーテンが、涼しげに揺れています。先日、兄弟都市の沖縄市を訪れた時に、豊中に来たという人曰く「豊中の夏は、沖縄より暑いですね」　暑い豊中の夏。熱い思いを持続したい。変わらない思いと変える努力と、両方持ち合わせて活動したい。いろいろえんぴつも、今号から少し変わりました。これからも変わります。変えます。（た）

「いろいろえんぴつ」へのご意見、ご感想をお寄せください

■特定非営利活動法人　とよなか市民活動ネットきずな／〒561-0884　豊中市岡町北 3-3-10　TEL＆FAX 06-6848-8989
■市民活動情報サロン（阪急豊中駅北改札口前）／ TEL06-6152-2212　FAX06-6152-2213
URL:http//www.kizuna-toyonaka.or.jp　　Mail:mail@kizuna-toyonaka.or.jp

きずなダイアリー

●(特活)国際交流の会とよなか(TIFA)「TIFAセミナー」パレスチナ人の現実／ナブロス難民キャンプで生まれて

★1948 年のイスラエル建国以来、家や土地を奪われ、難民となったパレスチナ人は約 500 万人、そして 60 年。パレスチナ人の多くは今なお先行きの見えない生活を強いられています。マフムードさんの生きてこられた軌跡をお聞きすることは、パレスチナの現実を知ることであり、パレスチナ問題を身近に考えるきっかけとなるでしょう。

★お話し：マフムード・アル＝マフムードさん（アラビア語講師）★日時：９月５日（土）午後２時～4時★会場：とよなか国際交流センター ３ Ｆ イベントホール★参加費：300 円★マフムードさんがアラビアコーヒーをいれてくださいます。お楽しみに！＜マフムードさんの生い立ち＞両親はパレスチナのハイファという町で暮らしていましたが、イスラエル建国により追放されて難民となり、ナブロスの小さな難民キャンプへ。1960 年、そこでマフムードさんは生まれました。その後、家族は紛争を逃れ、ヨルダンのアルカラヤ・キャンプなど、あちらこちらの難民キャンプを移動しました。そのような中で、彼が５歳の時にお父さんが病気になり、医師に診てもらえず、４ 人の子どもたちを残して亡くなりました。食料も生活も教育も、すべて国連に頼っていたという難民キャンプでの生活は大変厳しいものでした。

■主催・問合せ：ＮＰＯ法人 国際交流の会とよなか（TIFA）TEL&FAX06-6840-1014
Ｅメール　tifa99@nifty.ne.jp
ホームページ
http://homepage1.nifty.com/tifa/

●豊中平和映画祭／ドキュメンタリー映画「ブライアンと仲間たち　パーラメント・スクエア SW１」(2009 年、英国・日本、９７分 DVD、カラー)★監督・撮影：早川由美子★日時：８月２３日（日）（１）午後１時～（２）午後３時３０分～★場所：すこやかプラザ（岡上の町）★内容：７年以上英国会の前に居続ける男、ブライアン・ホウを日本の女性監督が撮った。大阪初上映、各回終了後監督挨拶あり★入場料：５００円(高校生以下無料)

■問合せ：豊中平和映画祭実行委員会
℡06-6841-1656

●ＮＰＯ法人　パーフォーミングアーツ・コーポレーション「素のままフェスタ２０１０」

「こんにちは。ＮＰＯパコです。今年度の「素のままフェスタ」決まりましたのでお知らせします。

★日時：２０１０年２月２０日（土曜）★場所：アクア文化ホール（曽根東町）★内容：「素のままフェスタ」は障害のある人たちの表現活動の可能性、ステージパフォーマンスをなかだちにした障害者と市民の楽しい交流の祭典です。

「素のままフェスタ２０１０」ワークショップ

・８月からゴスペル、ダンス、ジャグバンドなどのワークショップを月１回開催します。講師とともに素のままフェスタ出演をめざします。一般市民の方の参加大歓迎！

参加料５００円(1 回)

■問合せ：ＮＰＯ法人　パーフォーミングアーツ・コーポレーション(パコ)
℡06-6868-2153　担当：河北まで

●第二回豊中平和演劇祭

★８月 23 日（金）午後６時～デュオきんたろう　午後７時～／劇団金太郎飴 「夏の伝言」

★８月 22 日（土）　午後１時～劇団金太郎飴 「夏の伝言」／午後２時１５分～　デュオきんたろう／午後３時～劇団金太郎飴 「夏の伝言」

★８月 23 日（日）午後１時～ぼっちゃん（大阪大学アカペラサークル （inspiritual voices 所属）／引き続き～豊中市民劇場劇団“萌”「なすの庭に、夏」／午後４時～ぼっちゃん／引き続き～豊中市民劇場劇団“萌”「なすの庭に、夏」

★場所：すてっぷホール（豊中駅西隣エトレビル５F)★チケット：1 日券 1,000 円（中高生 500 円、小学生以下無料）（障害者・介助者 500 円)※半券を持参されれば、2 日目からは半額／平和をうたうバンドや大阪大学のアカペラグループも協力出演／同時開催「平和への女性１００人のメッセージ展」（すてっぷホール横の展示スペースにて）

■問合せ：ほたる企画℡06-6840-5656

きずなダイアリー

注目！

「きずなダイアリー」始めました

このコーナーは「きずな」会員や関連団体の催し、活動情報および、共催／後援情報を掲載します。「いろいろえんぴつ」次回は 10 月に発行予定です。１１月、１２月に催しを開催する予定のグループは、ぜひ「きずな」へご連絡ください。お待ちしていまーす。

●第 20 回　出会いの部屋・アジア研究会／韓国と日本の新たな関係づくりのために／「韓国民主化運動」の自分史を語る

★これまで韓国と日本の関係は、お互いに心を開いて、思っていることを正直に語り合うことが困難でした。それではいつまで経っても、真の理解と和解に到達しません。韓国も日本も「民主主義」を標榜している以上、いろんな意見があるのは、当然です。政治の言葉ではなく、運動のスローガンでなく、一人の人間としての内面から出てくる言葉で、率直な対話を期待します。

★講師：李学永（イ・ハギョン、韓国 YMCA 全国聯盟事務総長）★日時：９月２６日（土）午後２時～4時半★会場：豊中男女共同参画推進センター　すてっぷ視聴覚室（豊中駅西側エトレ５F）★参加費：500 円

■主催：（社）アムネスティ・インターナショナル日本 関西連絡会&コリア・チーム★問合せ：アムネスティ大阪事務所 TEL06（4395）1313、FAX06（4395）1314

●（社福）萌（きざし）、通所授産施設・福祉作業所クレヨン（知的障がい者　通所施設）

★当施設は重度、軽度を問わずどんな仲間でも一緒に暮らせる施設をめざしています。作業、工芸、自活訓練などグループホームで生活できる多くの課題に取り組み、心の安定と自立・自活へ向けて、支援者、ボランティアなど多くの方々の支援を受け「共に生きる・地域で生きる」をスローガンに毎日励んでいます★豊中市内のイベント（さわ病院など）などで沖縄そば・物産の販売をしますので、ぜひお立ち寄りください。今年の日程は未定です★利用者さんが制作に携わった藍染のタオルとＴシャツ、コースター、イスも販売しています。ホームページでも閲覧できますので「福祉作業所クレヨン」で検索お願いします。　http://kizashi-crayon.jp/

■連絡先 :TEL06-6335-5121 担当：荻原京子（事業者代表）

●「まけるな！がんばろう！サポネ運動会」ボランティア大募集！！

★日時：９月１９日（土）午前 10 時～午後５時★場所：豊中市立障害福祉センターひまわり ３ Ｆ体育室★参加費：500 円★申込締切：９月１４日（日）★内容：パン食い競走、大玉転がし、玉入れ、リレー、みんなでダンス等★ＰＲ：障害のある人とない人の出会いの場としてのイベントです。当日は、たくさんの参加者・ボランティアが集まり、大盛り上がり間違いなしです。障害のある人と共に一日楽しく過ごし、障害への理解を少しでも深めて頂けたらと願っています。

●2009 年度 第２回 サポネカレッジ「医療的ケア講習会　医療的ケアについての現状と基礎知識」講習会

★日時：９月２７日（日）午後１時～午後５時★場所：豊中市立障害福祉センターひまわり ２ Ｆ会議室★費用：1500 円（テキスト代込）★内容：医療的ケアのお話と地域での生活、医療的ケア体験実習、Q&A★ＰＲ：医療的ケアのお話、医療的ケアの必要な方の地域での生活紹介、医療的ケアシミュレーター（訓練用人形）を使っての実習（吸引・尿道等）、排痰・呼吸を楽にするための手技など。地域で介護・福祉に関わる方、ぜひご参加ください★定員：約３０人（要予約）★締切り：９月２４日（木）

●今後の予定：詳細に関しては、サポネ事務所までお問い合わせください

★１１月１５日（日）第３回 サポネカレッジ

★１１月２１日（土）サポネ　マニアックツアー

■NPO 法人障害者の自立を支えるサポートネットワーク（サポネ）

TEL06-6846-7781、FAX06-6846-7782

E-mail：CQT01523@nifty.com

HP：http://homepage2.nifty.com/sapone/

「きずなダイアリー」へのご連絡はーーー

■特定非営利活動法人　とよなか市民活動ネットきずな／

〒561-0884　豊中市岡町北 3-3-10　TEL＆FAX 06-6848-8989

■市民活動情報サロン（阪急豊中駅北改札口前）／

TEL06-6152-2212　FAX06-6152-2213

URL:http//www.kizuna-toyonaka.or.jp

Mail:mail@kizuna-toyonaka.or.jp